

日本におけるインテリアカラーコーディネーション システムとイメージの立体モデル

日原もとこ・児玉 晃・松井英明

Cubic model of the Japanese Interior Color Coordination System & Image

Motoko Hihara*・Akira Kodama**・Hideaki Matsui**

*製品科学研究所

**日本色彩研究所

我が国の住宅様式は過去40年間にわたって急速な洋風化を辿り、それにともなうインテリアカラーも重要な要素となってきた。このことからインテリアの色彩設計に際して、適切で誰にも分かり易い配色のマニュアルが必要とされるようになってきた。

インテリア産業協会は色彩専門委員会を設置し、1985年からインテリアカラーコーディネーションシステムの開発を手がけてきた。そのねらいはインテリアコーディネーター向けに、一般住宅のインテリアに用いられている色彩の調査によって、インテリアエレメント別のカラーマトリクスの作成と、このデータから提案されたインテリア配色のイメージ構造を明らかにすることである。

1. 基礎調査—インテリアカラーコード—

インテリア関連商品又は材料として過去5年間に、特に売行き良好なものを対象とする1297サンプルを市場から収集し、その表面色を測定した。各サンプルは日本色彩研究所の色名システムによる色相とトーンに分類し、それぞれの出現比率を明らかにした。

次にこれらの中から700種の色サンプルが選ばれ、インテリアカラーマトリクスが作成されたが、これによって、現代の日本のインテリアカラーに関する範囲の概要が一望できるようになっている。

2. インテリアカラーコーディネーションにおける基本的イメージ軸について

2.1 イメージ実験1（色票による抽象刺激の場合）

実験は50人のインテリアデザイナーを被験者とし、壁と床、ソファを想定した3色配色の色票47サンプルについて、表1にみられる評価尺度によって評定させた。これらのデータは因子分析の結果、表1のように4つの主因子が抽出された。それらは以下のごとくである。

- 第1因子：親近性（自然な，柔い，和風—
人工的，ダイナミック，ハイテク）
- 第2因子：力動性（男性的，冷い，固い—
女性的，暖い，柔い）
- 第3因子：活動性（明るい，派手な，軽快な—
暗い，地味な，重厚な）
- 第4因子：評価性（スマートな，調和した，モダン，落
着いた—やばな，不調和な，クラシ
ック，落着きのない）

2.2 イメージ実験2（略画と実例写真による具象的刺激の場合）

この実験は前実験の結果に対して抽象—具象の差異が生ずるか否かをチェックする意味があった。そのために前実験の代表的配色例24種をインテリア略画に適用したものと、それらに対応する実例写真24種計48サンプルを刺激図形とした。これらを因子分析にかけて抽出した3主因子は次のとおりである。（表2）

- 第一因子：親近性（冷い，固い，男性的，人工的—
暖い，柔い，女性的，自然な）
- 第二因子：活動性（明るい，派手，軽快な—
暗い，静かな，厳めしい）
- 第三因子：評価性（落ち着いた，スマートな，調和した—
落着きのない，やばな，不調和な）

3. カラーイメージの3次元モデル

“活動性因子”に関しては抽象的刺激の場合，第3因子であったが，具象的刺激では第2因子となった。しかし“力動性因子”に関しては具象的刺激において第1因子“親近性”に吸収された。このために抽象的刺激における第4因子“評価性”は具象的刺激において第3因子

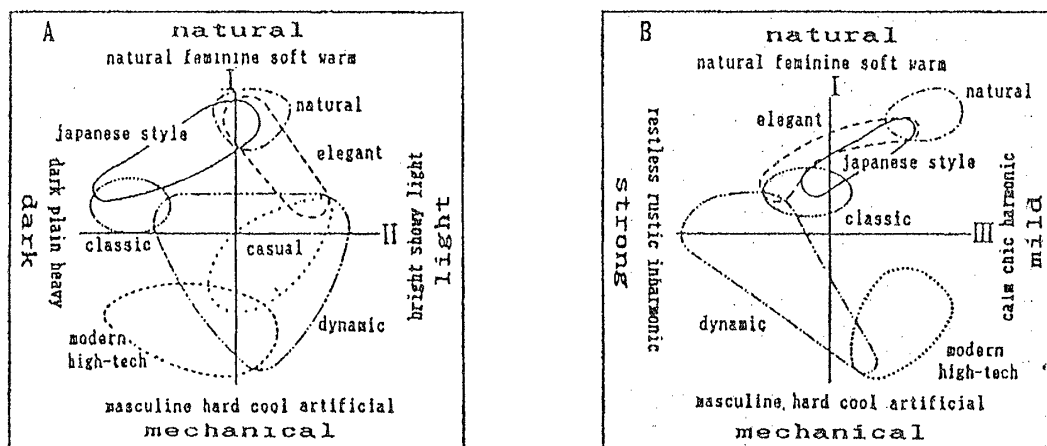
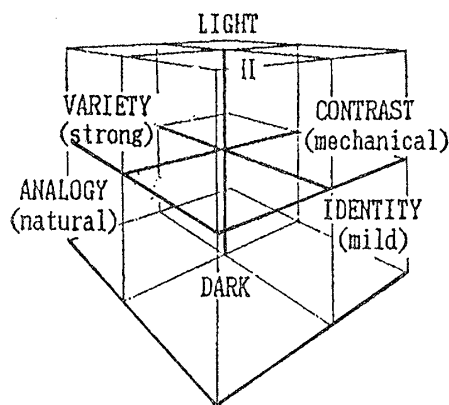


Fig. 1 Interior Image Map

Fig. 2 Capitalized Words Describe Color Combinations
(adjectives) Describe Image CategoriesTable 1 Image Factor Analysis of Abstract Color Combinations
(3 color combinations - wall, floor, sofa -)

evaluation scale			F 1	F 2	F 3	F 4
friendliness	natural	- mechanical	0.886	0.389	-0.073	-0.114
	high-technical		0.615	0.555	-0.002	0.453
	natural		-0.897	-0.175	-0.168	0.212
	dynamic		0.640	0.306	-0.254	-0.081
	japanese-style		-0.739	0.008	0.087	-0.277
potency	cold	- hot	-0.447	-0.751	-0.128	-0.315
	hard	- soft	-0.636	-0.704	-0.124	-0.165
	masculine	- feminine	-0.144	-0.883	-0.184	-0.061
	elegant		-0.080	-0.829	0.100	0.346
	light	- dark	0.016	0.226	0.834	-0.143
activity	gay	- quiet	-0.539	0.046	0.730	0.149
	dignified	- light hearted	0.002	-0.067	-0.908	0.042
	classic		-0.234	-0.441	0.669	-0.053
	casual		-0.126	-0.050	-0.706	-0.230
	serene	- restless	0.554	0.118	-0.500	-0.591
evaluation	smart	- rustic	-0.115	0.068	0.089	-0.955
	harmonic	- inharmonic	0.194	0.096	-0.167	-0.907
	modern		0.581	0.341	-0.129	0.652
	eigen value		4.613	3.507	3.482	3.205
	contribution(%)		25.6	19.5	19.3	17.8
	accumulation(%)			45.1	64.4	82.2

となっている。

したがって、具象的刺激における3因子は全評価尺度を偏りなく包括していると考えられたことから、前述委員会はこれをインテリアカラーコーディネートシステムの基本イメージとして採用した。

図1は2つのイメージマップを示す。(A)図は第1因子(親近性)と第2因子(活動性)における各尺度の位置関係を示し、(B)図は第1因子と第3因子(評価性)における各尺度の位置関係を示したものである。これらの結果、3つの因子軸の両極に付置する6つの配色型の特徴を考察し、以下のネーミングを与えた。

第1軸：アナロジー-コントラスト(トーンの要因)

第2軸：ライト-ダーク(明度の要因)

第3軸：アイデンティティ-バラエティ(色相の要因)

これらのイメージ因子軸は各々トーン、明度、色相の要因によって特徴づけられていることが分かった。

4. 基本的インテリア配色モデルの概念

図2は3つの因子軸によって構成される立方体であり、各軸の両極には配色型のネーミングが付されている。次にこの3軸によってこの立方体を分割したときに得られる8象限を8ブロックとしてとらえると、図2にたとえば、垂直軸を明度の軸にして上部4ブロックがライトシリーズ、下部4ブロックがダークシリーズとなる。

残るトーンの軸 { アナロジー(同一、類似トーン)
コントラスト(対照トーン)

色相の軸 { アイデンティティ(同一、類似色相)
バラエティ(対照色相)

の2つの軸を組合せれば上下共通の4つのブロックに対応する配色型ができる。これらを最終的なインテリアの代表的な配色型として以下のように命名した。

・ユニティ：同一、類似色相と同一、類似トーンの組

Table 2 Image Factor Analysis of Concrete Color Combinations

evaluation scale			F 1	F 2	F 3
evaluation activity friendliness	cold	hot	0.920	-0.128	0.165
	hard	soft	0.974	-0.067	-0.082
	masculine	feminine	0.792	-0.418	0.089
	natural	mechanical	-0.873	-0.203	0.304
	light	dark	-0.217	0.878	0.076
	gay	quiet	0.257	0.746	-0.501
	dignified	light hearted	0.167	-0.851	-0.076
	serene	restless	-0.349	-0.487	0.733
	smart	rustic	0.325	0.257	0.848
	harmonic	inharmonic	-0.084	-0.026	0.929
	eigen value		3.562	2.594	2.516
	contribution(%)		35.6	25.9	25.1
	accumulation(%)		35.6	61.5	86.6

合せ

- ・バリエテイ：対照色相と対照トーンの組合せ
- ・ソ フ ト：対照色相と同一，類似トーンの組合せ
- ・ハ ー ド：同一，類似色相と対照トーンの組合せ

これらに2因子から合成されたイメージを対応させてみると表3のようになり，これが，インテリアの基本的配色型モデルとして提案された。

Table 3 Basic Interior Color Combination Names and Contents

-Table 3 represents both light (upper) and dark (lower) areas- * H:Hue,T:Tone

color combination name of quadrant	combination [hue/tone]	color combination name of axis	synthetic image
unity	H ⁺	identity	natural harmonic chic
	T ⁺	analogy	japanese-style modern
soft	H	variety	hot soft classic
	T	analogy	elegant feminine
variety	H	variety	gay restless inharmonic
	T	contrast	casual dynamic
hard	H	identity	mechanical cold masculine
	T	contrast	high-tech modern